● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標３	みんなの命と暮らしを守るまちづくり
政策	（１）災害対策
施策	①　地域の防災力の強化

現状と課題	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①地域ごとに自然災害の危険性が異なること、また、自治会への未加入者の増加などによる地域のつながりや共助意識の低下により、自主防災組織間や校区間において、防災意識や防災活動に差が生じている状況です。	・自主防災組織とは何か（接点がない、どこにある、行政区にある？） ・防災ハンドブックが周知されていない ・防災ハンドブックに118番の紹介、記載がない ・防災ハンドブックを市民が活用できていない、情報が届いていない

施策の基本方針	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶全地域に同じような取組を推進するのではなく、地域の状況に応じた防災活動を推進します。 ❷地域の防災士が各自主防災組織に積極的な参画ができる体制を構築し、自主防災組織の活動の充実を図ります。 ❸災害発生時等に、自主防災組織が迅速かつ効果的に活動することができる体制を構築します。	―

主な取組	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）地域の防災士が中心となった自主防災組織等の訓練等の支援	―
（２）全自主防災組織での地区防災計画の策定・更新等による自主防災組織の実効性の確保	―
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・防災ハンドブックの見直し　・地域の特性を知る（川のピクニックなどの遊びを入れてはどうか） ・小中学校で防災情報を教えてもらうことや連携した取組はできないか？　・企業、団体と連携した防災意識の啓発

● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標３	みんなの命と暮らしを守るまちづくり
政策	（１）災害対策
施策	②　防災・減災基盤の整備

現状と課題	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①防災行政無線は、地域によって聞き取りづらい状況があるため、市民に防災情報を迅速かつ的確に伝えることができる環境を整備する必要があります。 ②自然災害の危険性が高い地域の高齢化が進み、地域内で避難行動要支援者の避難を支援する人材の確保が困難な状況です。	・30km圏内に住む人は、原子力防災について情報がない、知らない

施策の基本方針	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶情報伝達の多重化を図り、災害時等の確実な情報収集・情報伝達手段を確保します。 ❷避難行動要支援者の確実かつ安全な避難体制の構築を図ります。 ❸国土強靭化地域計画を着実に実行し、災害に強い安全なまちづくりを進めます。	・原子力災害に対する備えの強化

主な取組	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）各種ＳＮＳやＩＣＴを活用した防災情報を伝えるための新しいサービスの積極的な導入	・災害時、年配者はテレビから情報を得られるとよい　・SNSでの情報取得の際、フェイクニュースとの区別ができるか、防止対策
（２）自主防災組織の活性化等による避難行動要支援者の避難支援等関係者の確保	・玄関に、要支援者や支援希望の印がわかるように札を出す　・日常的な訓練は大事
（３）地域や関係機関・団体等との連携・情報共有による避難行動要支援者の個別避難計画の作成	―
（４）原子力防災訓練を毎年実施することによる避難計画の実行性を向上	・原子力の避難訓練については、30km圏内を外れる地域も実施すべきではないか ・原子力防災訓練について、海で船を使って逃げる方法の訓練を検討してはどうか
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・災害の記憶や記録を年配者（よく知っている老人）に聞き取る　・九大との連携した災害時の備え

● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標３	みんなの命と暮らしを守るまちづくり
政策	（２）消防・救急の充実
施策	①　消防力の強化

現状と課題	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①全国的に火災の件数は減少傾向にあるものの、気候変動や建物の大規模化・複雑化により、火災が発生すると被害が拡大する危険性が高まっています。 ②地震や風水害が大規模化しているとともに、生活様式の変化や建物の高機能化により、対応が困難な災害の発生が懸念されます。	・空き家の情報や避難場所がわからない（地震で火事が起きた場合など） ・災害時にどこが避難所になるか、イメージがつかない ・消防団員の減少 ・自主防災組織をどう組み立てるか

施策の基本方針	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶火災の発生を未然に防ぐとともに、火災の発生による被害を軽減するため、火災予防に関する取組を強化します。 ❷大規模災害の発生に備え、消防署と消防団の連携強化を図り、災害の複雑化・多様化に対応するため、消防力を充実・強化し、災害対応力を向上させます。	・消防団と自主防災組織の連携 ・豪雨の備え

主な取組	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）計画的かつ効果的な防火査察の実施による多角的な違反是正指導の徹底	―
（２）消防団との連携強化と様々な訓練の実施による消防力の強化	―
（３）消防車両や消防施設などの計画的な整備・更新による消防力の強化	―
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・海抜〇ｍという表示

● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標３	みんなの命と暮らしを守るまちづくり
政策	（２）消防・救急の充実
施策	②　救急体制の充実

現状と課題	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①出動件数の増加や市外の病院への搬送が多くなっていることから、救急出動１件あたりの所要時間が長くなっているため、救急車の現場到着所要時間が延伸傾向にあります。 ②市民の救急・救命に対する意識を定着させ、さらに高める必要があります。	・次に新型コロナのような感染症の対応、対策はあるのか？

施策の基本方針	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶市民の生命を守るため、救急車の現場到着所要時間の維持に努めます。 ❷救急車の適正な利用に関する市民理解を促進します。 ❸救命講習等について、市民が反復継続して受講することを促進します。	・スムーズな病院受入れの体制づくり

主な取組	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）通信指令システム等を計画的に更新・整備することによる119番通報から出動指令までの迅速化	―
（２）救急車を計画的に更新・整備し、増加する救急需要に対応できる効率的な運用	―
（３）応急手当講習や消防防災フェアの開催等による救急車の適正な利用に関する周知・啓発	・救急車の出動要請をAIで判断できるようにならないか　　・救急車を呼ぶかどうかの判断が難しい、相談できる「＃7119」を広く周知
（４）応急手当講習等の受講者を増加させることによる市民の救急・救命に対する意識の向上	・火事の発生時などに近所の高齢者へ呼びかけをする、応急救護の訓練
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・オンライン診療

● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標３	みんなの命と暮らしを守るまちづくり
政策	（３）防犯・交通安全の推進
施策	①　地域の防犯力の向上

現状と課題	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①子どもたちへの声かけ事案などが後を絶たないため、地域や関係機関が一体となった防犯活動を充実させていく必要があります。 ②防犯灯や公共施設を中心に防犯カメラの設置を進めていますが、痴漢や窃盗などの犯罪は繰り返されています。 ③管理不全な空き家が増加しており、防災、防犯、景観、近隣環境への悪影響など、さまざまな問題を引き起こす要因となっています。	・コロナを経て、“つながり”が弱くなっている ・近所づきあいの重要性 ・集まる場が地域であればよい

施策の基本方針	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶子どもたちの登下校時の見守り活動や小中学校の防犯対策を強化します。 ❷犯罪の発生状況等を踏まえながら、地域と連携して犯罪の抑制を図ります。 ❸犯罪発生の温床となる危険な空き家等の発生を抑制します。	・参加したくなる見守り、防犯活動（パトラン） ・空き家活用の促進

主な取組	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）青パトによる地域巡回や生徒指導専門員による小中学校の登下校時の巡回の充実	・パトランが行かない場所のパトロール強化
（２）教員や地域・警察が連携した登下校時の子どもの見守り等による防犯対策の強化	―
（３）防犯灯の増設による危険箇所の解消	・防犯灯をもっと増やしてほしい、どこにつけてほしいなどの相談ができる仕組みがほしい、子どものお願いポスト、HPの窓口の設置など ・意見や要望を出せるHPのフォームと、どのような意見が上がったのか明らかにする、見えるようにする
（４）公共施設を中心に防犯カメラを増設することによる防犯力の向上	―
（５）適切な指導等による空き家の適切な管理の推進	―
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・老人クラブなどのサークル活動でつながりづくり

● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標３	みんなの命と暮らしを守るまちづくり
政策	（３）防犯・交通安全の推進
施策	②　交通安全対策の強化

現状と課題

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①交通安全教室の開催等による児童生徒への指導や、登下校時の見守り活動に取り組んでいますが、交通事故は依然として発生している状況です。 ②糸島警察署管内の飲酒運転検挙件数は増加しており、飲酒運転の撲滅には至っていません。 ③高齢者の運転による事故は増加しており、交通事故全体に占める割合も増加しています。	・歩道が狭く歩きにくい ・道路標示の管理ができていない ・横断歩道が少ない ・ドライバーのマナーが悪い（若い人） ・カーブミラーの管理ができていない ・広報の郵送によりコミュニケーションなし ・道路表示が消えている ・道路が暗い

施策の基本方針

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶学校や警察・交通安全協会・地域と連携し、交通安全教育・啓発活動の充実・強化を図ります。 ❷飲酒運転撲滅に向け、引き続き啓発活動の充実・強化を図ります。 ❸高齢者の運転事故防止に向けた取組を推進します。	・免許返納しても安心して暮らせるまちづくり ・子どもを見守る高齢者のネットワーク化

主な取組

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）交通安全県民運動期間を中心に、関係団体と連携した交通安全対策の強化	―
（２）通学路合同点検、学校における交通安全指導、交通安全教室による児童・生徒の安全確保	・講習会の実施　・歩道整備　・子どもの通学を見守る体制の整備
（３）看板設置によるドライバーへの注意喚起	―
（４）駅前キャンペーンや飲食店への啓発などによる飲酒運転の撲滅に向けた取組	―
（５）運転免許証の自主返納の促進や安全運転教室の開催などによる高齢者の運転事故の防止	・バスを効率よく運行　・免許返納後に不便にならないような対策を（ドローンで配達など）
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・自治会に入っていない人との情報共有など　・防災士の地域での活動　・あいさつ運動の実施

● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

—	—
重点課題２	**防災・減災対策**
施策	**市民一人ひとりの防災力が高いまち“いとしま”プロジェクト**

現状と課題	
素案（たたき台）	**まちづくり市民委員会の意見**
①主に学校で活用している市独自の防災教育ポータルサイトを家庭や地域でも活用し、防災・減災意識を高める必要があります。 ②地域における防災人材を発掘・育成し、自主的な活動を促進しながら、地域の防災力の向上につなげる必要があります。 ③自主防災組織の活動が地域としての活動に発展していない現状があります。	・市独自の防災教育ポータルサイトを知らない ・窓を閉めていると、防災無線が聞こえない ・具体的なアクションがない、見えない ・歩ける平らな道でない ・下水道、上水道の文字が消えている ・街灯のデザイン、糸島の景観との調和 ・災害があった時はみんな被災者、どう自分で行動し、何ができるか ・マンホールの文字が消えてスリップ

施策の基本方針	
素案（たたき台）	**まちづくり市民委員会の意見**
❶防災教育ポータルサイトの学校や家庭、地域での活用を促進するとともに、繰り返し活用することができる環境を整備します。 ❷地域の防災士を取りまとめる防災マイスターを認定しながら、その活動を通じて地域の防災力を高めます。 ❸自主防災組織の活動への幅広い世代の参画、意見等の反映を図りながら、学校や家庭、地域が共同・連携した防災教育を実施します。	・市民の防災意識向上 ・安全な避難ができるまち

主な取組	
素案（たたき台）	**まちづくり市民委員会の意見**
（１）情報の追加・更新による防災教育コンテンツの活用促進及び情報更新等	—
（２）防災士・防災マイスターの育成やスキル向上	—
（３）地域の子どもを対象とした防災検定を通じたジュニア防災士の育成	—
（４）防災マイスター等を中心とした学校・家庭・地域が共同・連携した防災訓練等の実施	—
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・行政からのわかりやすい情報発信　・ハザードマップの普及　・避難に支援が必要な人の把握 ・防災をマンガで伝えるようなコンテンツを作成してみてはどうか　・元気な高齢者を防災マスターへ ・防災検定とジュニア防災士はもうすでにある制度なのか、これからの取組なのか ・防災の設備がどこにあるのかわからないため、行政区などでわかるようにしてほしい（知らないとできない）　・パッと見てパッとわかるように ・街灯の非常電源、予備電源の整備　・災害情報をきちんと流してほしい　・安全避難のための通路　・Wi-Fiが使えるように ・避難させる人がどこにいるかといった情報の共有